

市指定文化財（記念物・天然記念物）

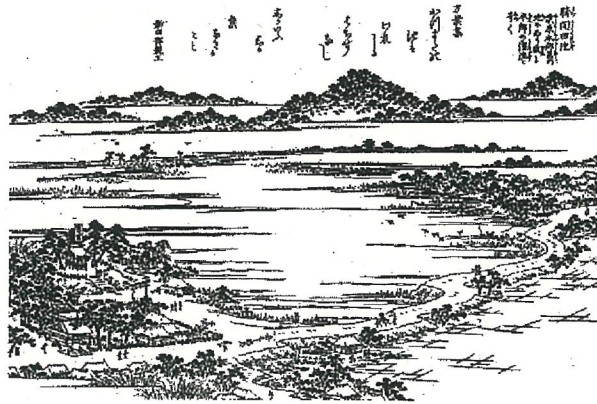
平成24（2012）年3月30日指定

葛飾神社のクロマツ

所有者 葛飾神社

正面の神社本殿を囲む玉垣の中に聳え立つこのクロマツは、幹が二股に分かれて社殿を覆うように枝が笠状に伸長しており、南側から眺める姿は、社殿と一体化しているような美しい景色を成しています。クロマツの樹高は13m、幹回り3.42m、葉張り16.5mで、市内では最も太いクロマツです（平成23年3月計測値）。クロマツはマツ科マツ属の常緑針葉高木で、本州、四国、九州に分布し、オマツとも呼ばれています。

葛飾神社は元の勝間田の池（現在の勝間田公園）の西高台にあります。この池は、万葉集などに詠まれた大和国西の京、唐招提寺と薬師寺の近くにあったという勝間田の池になぞらえられ、その名は寛延2（1749）年刊行の『葛飾記』などに登場して、下総の歌名所の一つとして数えられるようになっていました。（※）



『江戸名所図会』挿絵「勝間田池」

勝間田の池は天保7（1836）年刊行の『江戸名所図会』（長谷川雪旦画）の挿絵に描かれており、池の脇には熊野宮（熊野神社；現在の葛飾神社地）が描かれ、そこに松林を見ることができます。葛飾神社はかつて葛羅の井の西の地にありましたが、大正3（1914）年に熊野神社へ合祀されることになり、同5（1916）年にこの地へ移され、村社葛飾神社と改称し現在に至っています。

このようなことから、葛飾神社のクロマツは江戸時代から今日に至るまで、人々に親しまれてきたことがうかがわれます。

※勝間田の池は昭和40年代に埋め立てられて、公園に変わりました。

船橋市教育委員会